



ネイチャーなら

《わたしたちは大和の自然を愛します》

発行2015年10月1日

10月号・第165号

奈良・人と自然の会

会長 藤田 秀 憲



爽秋のエコファーム

Contents

ホームページでは、カラーで見ることが出来ます



URL <http://www.naranature.com>

発足十五周年に向かって	1	青垣春秋	12
多土済々（倉田 晃さん）	2	俳句百景	13
Monthly Repo.ならやま	3	癒しの散歩道&ならやま茶論	14
里山の今	4・5・6	ギャラリーならやま	15
8月・GGプロジェクト・報告	7	ならやまプロジェクト	16
9月・歴史研修会・報告	8	字遊字感・旬菜旬食	17
自然教室チームだより	9	行事案内 part1&part2	18.19
「鳥」シリーズ	10	幹事会報告	20
やさしい病害虫講座	11	仲間入り・申し合わせ・編集後記	21

会発足15周年に向けて

藤田秀憲

2001年9月24日、川井顧問を中心に有志45名で「奈良・人と自然の会」が発足して14年たちました。また、2007年3月に「ならやまプロジェクト」がスタートして8年6カ月が経過しました。

今日では、会員数も150名を超え、「ならやまプロジェクト」「月例研修会」「自然教室」を3つの柱に、蕎麦クラブや歴史文化クラブの活動も含めて、活動の範囲や内容も多岐にわたってまいりました。同時に、組織が大きくなり会員数が増えるに伴い、当初予想もしていなかった課題や問題点もいろいろ出てまいりました。

当会は、来年9月には発足15年の節目の年を迎えることとなります。これを機に、当会の理念や活動方針、事業内容の再確認と記念事業の考え方や内容について、設立15周年記念事業の企画会議で検討を始めました。

メンバーは当初から当会の発展に寄与されてきた両顧問や古川氏、弓場氏と会長、副会長、会計、事務局長で構成されますが、必要に応じて各グループの長にも参加していただくこととなります。そして基本的な考え方がまとまった時点で、幹事会に諮り、具体的な準備に入っていくことにしたいと考えています。

今後の活動を考えるにあたり避けて通れないのが、私たちの活動資金のあり方です。現在、私たちの年間活動費（経常費用）は概ね360万円程度かかっています。この内訳は、会報誌発行、ホームページ、チラシ、パンフレット等の広報関係。各種保険料や事務費や会議室賃料。各種行事やイベントの企画・運営費。研修会下見の交通費や旅費。刈払機、チェーンソーの更新や機械類の修繕。資材、備品、器具の購入。各種野菜等の種苗代、燃料等の消耗品の購入に使われています。

そして、年間活動資金の約3分の1は、会費をはじめ、ほのぼの基金（野菜、シイタケの会員販売）、薪の販売、各種イベント収入や自然教室、自然工作の展覧に伴う謝礼金等で賄っています。

残りの約3分の2は、「ならやま」における『プロジェクト』に対して、ご賛同いただいた企業からの環境助成金や林野庁の森林・山村多面的機能発揮交付金で賄っています。

このうち環境助成金は、新規の環境保全プロジェクトを策定、申請して、助成企業の評価・裁定の手続きを経て助成の対象になるものです。残念ながら、プロジェクト完了後の維持管理に対する助成は難しく、申請してもなかなか評価されないのが実情です。

また、林野庁の交付金は、森林所有者や地域住民等が協力して森林の有する多面的機能を発揮させるための保全活動及び山村地域の活性化に資する取組に対して、一定の基準に従って交付されるものです。申請、交付金の使途や報告書には厳正な手続きが要求されますが、この制度の趣旨からも、里山林整備に関しては今後とも活用していくべきと考えています。

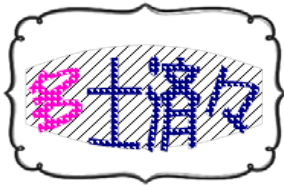
その他、この2年間、Green Gift プロジェクトに参加して、市民参加型の環境保護イベントを7回実施し、延435名（内子供252名）の方に参加を頂きました。このGGプロジェクトの助成金で、機械、備品、資材等の整備が可能となり、私たちの活動の環境と財務状況を改善することが出来ました。引続きGGプロジェクトへの参加要請があり、幹事会で協議の結果、平成28年も参加することになりました。

しかしながら、一時的に潤沢になった財源を基に活動を続けているうちに、私たちの活動における金銭感覚が雑駁なものになっていないか、いささか気懸りでもあります。

将来助成金が減少し、予算規模を縮小せざるを得ない時期が来ても、創意と工夫で活動を継続できる体制づくりを、資金に余裕のある今から考えておかなければなりません。

15周年記念事業を準備するにあたって、これまでを振り返り、今後の「奈良・人と自然の会」の活動はどうあるべきか。皆さん方のご意見をお聞きしながら取りまとめてまいりたいと考えています。

以上



自然の不思議を伝えたい!

倉田 晃さん

顧問 阿部 和生

いつも物静かな倉田さんは、自然教室チームのリーダーです。地域の児童たちに、植物の持つ不思議や魅力を分かりやすく伝え自然に親しむきっかけを与え、自然への関心を深めてもらおうと活動しておられます。その具体的な活動として奈良県内における小学校の授業や放課後教室で校庭の自然観察に取り組んでこられました。

「自然の不思議や面白さを、五感を使って味わい、自然遊びを楽しむこと」をコンセプトに実施しておられます。子どもたちが自然を好きになってもらうことを願ってのことです。



長年のお仕事を離れた後、シニア自然大学校(大阪)で自然を学び、これまでの人生とはまったく違う別世界を垣間見ることになり、眼からうろこ、感動し一途にのめりこまれたそうです。感動は情熱に変わり地球上での長い長い歴史を持つ樹木(=植物)に限りない愛着をもたれたのです。1年の学びのあと研究部インプリ科に進み大阪での児童への指導に力を注いでこられました。やがてお住まいの奈良市でも小学校児童に語りかけ自然と親しむ環境を作りたいと考えられ平成21年より自然教室チームを立ち上げ、有志の皆さまと共に活動してこられました。



几帳面・律儀なご性格は、下見、打ち合わせ、

当日の解説書作り、時間配分、雨天での対策等など 万般の準備をなされます。煩雑・大変なことを何事も無かったようにすすいと進められ、自然教室チームをリードされています。小学校では、正規の授業の中での観察会、放課後教室での指導、ある時は90分、学校によっては2時間、そして同じ学校でも年に数回の実施などにご活躍です。

多くの現場を拝見しましたがさまざまな工夫がなされています。毎年参加の児童でも同じカリキュラムとなりません、観察の時期・対象を変え・自然工作を取り入れたり、と縦横の対応をされています。そうしたことがリピーターとして毎年の来校要請に繋がっているのでしょう。

小学校に出かけてしまいますから 会員の皆様には目立たない地味な活動ですが、関係者、教育委員会、地域学校サポートコーディネーターなどからは高く評価されています。終了後の「今日は有難うございました!!」という輝いた子どもたちの大きな声で、倉田さんの笑顔がはじけます。



「自然教室チーム」は、会員を対象とした自然観察会も随時主催しています。会員の皆様共々の研修の場であり、交流の機会です。

各種取りまとめ文章・外部との折衝など多くの事がリーダー倉田さんの献身的なご努力で進められてきました。そうしたことの積み重ねが、いつしか過労に繋がってしまったのでしょうか? 「体力・気力が衰えてきた」と話されます。会員スタッフ20名になっています。

ご負担を分担軽減し、超繁忙→ゆとり生活への環境の変化を作っていただき、引き続きのご指導を切に願うものです。

Monthly Repo. ならやま

八木 順一

8月13日(木) 自主活動 晴れ 10名

夏休みにもかかわらず10名の参加者。ナスやピーマン、その他オクラ等の野菜の収穫でエコGは大変。また、サクラやウメ等の果樹の毛虫の一斉駆除を行った。花Gはアジサイ等の剪定に時間を費やす。

8月20日(木) 自主活動 雨 21名

21名が活動に参加。悪天候の中、8時過ぎにはならやまに顔を出していたメンバーも多い。GGプロジェクトに向けての環境整備や準備等で大忙し。雨の中、景観Gは駐車場やBC付近の草刈り、エコGはナスの収穫に一生懸命。ただ、午前中の天候の回復は見込めず、9時30分には作業終了。

**8月21日(金) 臨時活動 曇り 33名**

GGプロジェクトを翌日に控え、ならやまも大忙し。特にBC付近や駐車場付近の草刈り、枯れ木の処理等の環境整備をはじめ翌日の必要物の点検、特にテントの組み立てや活動場所等の最終確認を行う。またパトは翌日の里山冒険ハイクのコースの最終下見に。

里山Gは枯れ木の処理。景観Gは環境整備のための草刈り。エコGは野菜の収穫中心の活動に猫の手も借りたい様子。そのため午後からの残業が強いられる。

8月22日(土) イベント 曇り時々雨 51名+4名

夏休み2回目のイベント。狭いならやまに130名余りが集まる。午前中は子供の活動中心の飯

盒炊さん、午後は自然工作や昆虫ゲーム、そして広い里山林の冒険ハイク、と盛りだくさんの中身。体験の少ない子供たちにとっては有意義な楽しい活動になった。ただ、暑さ対策や健康面への配慮、その他準備の日程の組み方等でもまだまだ配慮せねばならないことも多い。

8月27日(木) 活動 晴れ 65名

GGも終わり、ならやま本来の活動が戻ってきた。エコGは秋野菜の植え付け準備に、景観Gは



草刈りを中心に取り組んだ。朝礼ではGGへの協力のお礼や今日から入会した新入会員の紹介、

その他スズメバチへの注意喚起等を行った。

9月3日(木) 活動 曇り時々雨 48名

50名近い会員が活動に汗を流すが、降雨のため10時30分には作業終了。里山Gは経団連関係の作業の準備。エコGはネギ伏せや野菜の収穫を中心に。景観Gは倒木処理をはじめ草刈りや畑の柵作りに汗を流す。打ち合わせでは夏時間終了の件や各行事への協力依頼等が主なものだったが備品調査を近々に行うことも連絡。

9月10日(木) 活動 曇り後雨 57名

朝礼では、景観サポーター基礎講習や小学生の野菜栽培見学の件等について連絡・依頼。本日から活動も普通時間に戻り、BCも北のサイトに移動。しかし昼食後、突然の降雨のため作業終了。山Gは景観サポーター事業の準備、景観Gは草刈りを中心に。また、エコGは種まき。

9月17日(木) 活動 曇り後雨 44名

涼しくなり活動には適した気候に。しかし雨には勝てない。11時過ぎには本格的な雨になり、昼食もそこそこに活動終了。各Gは雨が降らないうちにと草刈りや種まき、そして収穫と大忙し。打ち合わせではごみの持ち帰り徹底のお願いや環境サポーター基礎講習延期の件、その他月例研からの連絡もあった。

里山グループだより

大澤 教男

今日は活動お休み、何もないのでウツラウツラしていました。寝ぼけてパソコンを覗くと忘れようとしていた原稿依頼がきていました。寝ぼけた寝言をダラダラ書きたいと思います。

このところイベントや雨やらで継ぎ接ぎの活動



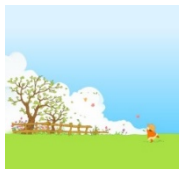
が続きましたが、これからは時候もよくなり、それなりに捗るでしょう。

先月号でもふれられていたように、今年はやけにナラ枯

れが目立っています。植樹や薪に区画、枯損木処理等みんなやることには事欠かない状況だし、今の時期はあまり伐らない方がいいのに、(ですけど)恰好悪いので気にしながら伐っています。

もうそろそろ、秋本番で、ナラ枯れ木伐採も解禁になるので本業にもどります。

先月の月例会で尼崎森づくりの研修があり、お題目にも多少曳かれましたが、小中学校を尼崎で過ごしてきたこともあり、なつかしきで夏季研修会に参加しました。



尼崎のきれいになっていることは15年程前に半年ほど仕事で通っていたので知っていたのですが、まさか森づくりとは、驚きでした。

100年計画とやらですが、小生としては、少々首をかしげるところもある取組です。まあ、悪い事ではないでしょうが、平成100年には日本の人口は5,900万人とのこと、昭和の初めの人口になります。

そのころには、一人当たりの緑や森林面積は今の倍以上有るわけだし、何もしなくても、人の住んでいない所は、多分……………。

いい言葉がありました、寝ぼけた今の小生にはぴったりです。

「後は野となれ山となれ」…………おわり。



エコファームだより

井戸 八穂子

暑いあいだ、食卓を賑わせてくれた万願寺、紫唐辛子、ゴーヤなどの夏野菜ともそろそろお別れです。夏野菜のなかでも保存のきくかぼちゃ

は16世紀半ばにカンボジアを経て日本に伝わり、「カンボジア」がそのまま「かぼちゃ」の名称となったそうです。ならやまでは宿讎かぼちゃ、ロロンかぼちゃ、坊ちゃんかぼちゃ、そうめんかぼちゃなどが育ちました。かぼちゃの採り頃は実の柄が茶色くコルク状になるころ。

辞書をひもとくと「かぼちゃに目鼻」「かぼちゃ野郎」という二つの言葉がありました。いずれも女性、男性の風貌が良くないことを表しています。菊座かぼちゃなどの和かぼちゃは表面がごつごつと角ばっています。それに比べて宿讎かぼちゃは表面がすべすべしていて面長ですから、美男美女にたとえてほしいものです。



(ならやまで収穫されたかぼちゃいろいろ)

チップや堆肥を何度も運びいれて耕し、フカフカの土のベッドとなった畑。元気な野菜が育つにはかかせない土作り。その畑に畝を作り冬野菜の種まきをしました。桜島大根や辛味大根の芽が大きく育ち始めています。青首大根、丸大根、蕪の種まきも終わりました。その他、九条葱、白菜などの鍋野菜も楽しみです。

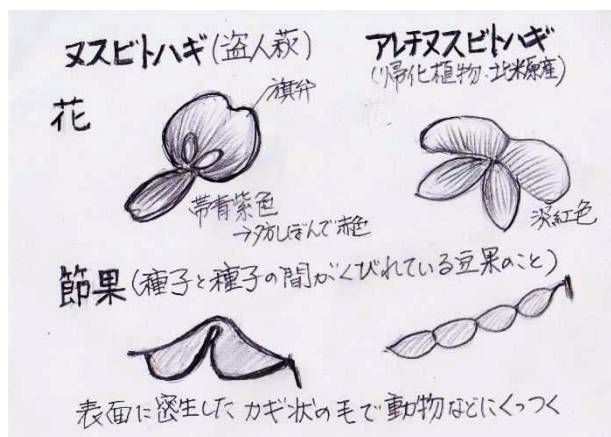
秋の味覚のさつまいもの葉が茂っています。10月の芋掘りイベントまでには地面の下の芋達も大きく育って、子供たちの期待に答えてくれることでしょう。

ならやま花だより

桜木晴代

活動拠点付近にもようやく秋の気配が。人も自然も元気に暑い夏を乗り切りました。作業がはかどる季節。里山の花も花壇の花も一息ついてる様子。里山の小さい小さい野の花たちは可憐な花を咲かせ、巡る季節を感じさせてくれます。

花は可憐ですが、これから私たちに引付き悩ませる花の一つにヌスビトハギがあります。-



【草花】ヒレタゴボウ、ヌスビトハギ、アレチヌスビトハギ、キツネノマゴ、イヌタデ、ヤブツルアズキ、ヤブマメ、カヤツリグサ、ヒメクグ、オオニシキソウ、コニシキソウ、ガガイモ、ヨモギ、イヌガラシ、チョウジタデ、エノキグサ、クズ、ススキ、ヒメジョオン、ツユクサ、キクモ、コナギ、タカサブロウ、エノコログサ、オオバコ、ボントクタデ、キンミズヒキ、センニンソウ、アメリカイヌホウズキ、ゲンノショウコ

【花壇】カンナ、ダリア、キンギョソウ、センニチコウ、マリーゴールド、ハナショウガ、ワタ、ハイビスカスローゼル、コスモス、ツルゴ、ヒガンバナ、ニラ、カクトラノオ、フジウツギ、ムラサキツユクサ、キバナコスモス、キキョウ、ホトトギス、オミナエシ、トケイソウ、タマスダレ

【樹木】スモモ、クコ、

【実・種】シロシキブ、アケビ、スズメウリ、ノイバラ、ヘクソカズラ、ヤマノイモ、シソ、アカジソ、ヒナタノイノコヅチ、ハゼラン

【つぼみ】フユイチゴ、ミツマタ



ペタキン日記最終回

羽尻 嵩

「2012年2月 ニッポンバラタナゴ育種のための新池造りを始める。」で始まったペタキン日記はこの41回を持って終わりとします。以下、3年前からの育種の日記の思い出をたどってみました。

【2012年】

「3/29 重労働であったが、知恵と力と協業の成果が出た。思わずみんなで“バンザイ”と叫んだ。」

「4/24 (火) 竹で池の柵作りをする。田中修さんと2人で麻紐とハウスバンドでくくっていく。きちんとくくっていくのは長い人生の中で初めての経験だ。これで池作りは、ほぼ完了！」

「6/7 ペタキンの放流会が行われた。近畿大学の北川先生より藤田会長に「ニッポンバラタナゴの里親認定証」が授与され、オス5匹・メス5匹のペタキンが新池に放流された。」

「6/28 近大の調査班がタガイ 15 個体の中に156 個の受精卵があるのを確認した。」

「7/31 前田君から報告受け行ってみると、体長1cm ぐらいの稚魚が群れを成して泳いでいた。」

「10/4 タナゴ池にヨシノボリ 8 匹を放流。」

「12/11 近大班によるペタキン池の調査。ペタキン 255 匹、シマヒレヨシノボリ 1 匹、モツゴ 5 匹、ドジョウ 5 匹、タガイ 14 個体、エビ類 1000 匹以上が確認された。」

【2013年】

「12/2 近代班 4 名によるタナゴ池の全生物調査が始まった。活動日ではなかったが、見学者も数名作業を見守られた。調査の結果、ニッポンバラタナゴ 107 匹、タガイ 11 個体、シマヒレヨシノボリ 3 匹の他、ドジョウやミナミヌマエビなどが多数捕獲された。この数は、期待した数には程遠いもので、タナゴは昨年より半減し、タガイは 4 個体が死に、ヨシノボリも半数以上が行方不明で、他にもモツゴも見当たりませんでした。」

【2014年】

今年になって、ペタキンとヨシノボリは順調に増えていっていたが、夏場になって確認できる数が極端に少なくなった。何かあったのか、原因ははっきりしない。

本年の育種の結果は、12 月にはわかると思いますが、それは新しいタイトルでまた報告します。

ならやま虫だより

菊川年明

◆ならやまの赤とんぼ

赤とんぼは秋の風景によく馴染む。「赤とんぼ」という呼び名は赤いトンボのうちのアカネ属のトンボだけを指すことが多く、本稿もこれによる。

初夏から飛んでいるが、目立つようになるのは秋で、代表種はナツアカネとアキアカネであろう。

ナツアカネは名前に「夏」が付いているが、夏だけでなく秋のかなり遅くまでいる。アキアカネは名前に「秋」が付いているが、平地で初夏に羽化し、直ぐに遠い山の上へ飛んで行く。夏の盛りは涼しい高原で過ごし、秋になってから平地へ降りてくる。したがって、平地の秋には「ナツ」と「アキ」が入り混じって飛んでいる。従来は「アキ」の方が多かったが、近年はなぜか「アキ」の減少が言われ、ならやまでもそれが実感される。田圃の利用方法の変化が原因とも言われている。

体色はどちらの種も夏の間は黄褐色で、秋の深まりとともに赤味が増し、赤味はオスの方が強くなる。ことに「ナツ」のオスは顔面から尾のように見える腹部の末端まで真っ赤になる。この両種に限れば「ナツ」の方が少し小さく、ことに「ナツ」のオスは全身が真っ赤なので見分けやすい。

ならやまの赤とんぼで次に多いのはリスアカネ（スイスのトンボ学者リス氏にちなむ名前）、ノシメトンボ、コノシメトンボである。この3種はいずれも翅の端に濃茶色の部分がある。そのほか、マユタテアカネ、マイコアカネ、ヒメアカネなどもいる。このうち、マユタテアカネのメスには翅端に濃茶斑のある個体があるので注意を要する。

(写真はナツアカネのオス)



パトロール班レポート

小島武雄

ならやま観察路は、里山林の若返りのための部分皆伐が始まり、危険につき立ち入りができない場所が出てきました。赤いコーンと表示を付けてバリケードを5箇所しています。

現在今までの4つの観察路を見直し、来年2月までの間は、短縮や往復するコースになっています。特に4コースは、あまりに短くなるのでビオトープの池周辺を含める事にしましたので、パトロールへのご協力をお願いします。

4コースの佐保自然の森に植樹されていた、ヤマザクラや、ヤマボウシなど50本あまりの樹木が、枯れて30本に減少しました。

木の表示板が汚れ判読不能になり見苦しくなっていましたので、傷んだ木の部分を削り出してもらい、文字の書き直し、防腐剤塗布をして、付け替えています。

また、シニアの実習で来られる方々の為、ならやまの四季の移り変わりや、活動の範囲や現況を知ってもらうように、季節ごとの観察路メモを作成し、コース地図とメモを手に参加してもらっています。

今月は、イベントなどで観察路への散策の不具合にならないように、主に笹刈りを重点的におこないました。丸太階段のやりかえ補修、手摺の安全点検なども、大切なパトロールの役目です。



(観察路立ち入り禁止)



(木の表示板の取替)

わくわく！ドキドキ！里山で遊ぼう！

GGプロジェクト イベント報告

8月22日、夏休みの子供達お楽しみイベント第2弾をならやまベースキャンプ地で開催しました。毎年この時期のイベントは雨にたたられており、今回も準備を予定していた20日が激しい雨に見舞われましたが、幸いにも当日は曇り空で絶好のイベント日となりました。

参加者は子供達が47名、保護者が31名、来賓が2名で、当会スタッフ52名で対応しました。午前中は7月のイベントと同じように飯盒炊さんとカレーづくり。午後はならやま里山林を活用した冒険ハイクと自然工作を実施し、子供達ばかりでなく、保護者にも楽しんでもらえたようです。



カレーづくりは、子供たちが主役で作業を楽しんでもらうことを基本方針にして、米の計量から、米洗い、カマドづくり、火の管理、野菜切り、カレー鍋のかき回し、飯盒洗いなどを体験してもらいました。小さな幼児も一丁前に参加し、夢中になって作業を楽しんでくれました。包丁を使うので心配もありましたが、軽い怪我？1名ですみ、無事に美味しいカレーが出来上がりました。

お待ち兼ねの食事では小さな子供たちもお代わりをしていたようで、準備したカレー、ご飯は余ることも不足することもなく完売になりました。どれくらいの量を準備しようかとスタッフの皆さん知恵を絞った甲斐があったようで、その読みはびたり！

午後はパトロール班の出番で、里山林内に8箇所のポイントを置き、そこで自然物を利用し、福

笑い、動物のかくれんぼなど趣向をこらした自然遊びが行われ、子供達は大喜びでした。次は何処でどんなイベントがあるのか興味津々で元気に里山探検を楽しんでいました。ゴールで散策から戻ってくる子供達や保護者を待ち受けていましたが、皆さんの顔つきは笑顔いっぱい十分に楽しんだのがありありとかがえました。

自然工作は、木の枝を利用した「もっくん」づくりで、目玉、ひげ、口など思い思いの飾りをつけたオリジナルでユニークなストラップがつぎつぎ出来上がりました。



今回のイベントは7月末のイベント終了後のスタートで、お盆休みも挟まり時間的に厳しい状態でしたが、全体計画が決まると各パートの担当スタッフがどンドン絵を描き、準備にはいっていただきました。イベント開始2日前の活動日も雨で思うような準備、打ち合わせが出来なかったにも関わらず、フタを開ければ何の問題もなくスムーズに進行。開始のスタートボタンを押すとあとは各担当スタッフが次々とイベント進め、タイムスケジュール通り進み、参加者、スタッフともども楽しめた一日でした。

スタッフのイベントに向けた事前準備、当日の進行の手際の良さは驚きを通りこして「すごい！」の一言に尽きます。イベントの表舞台で活躍するスタッフばかりでなく、案内、駐車、受付、設営、救急、記録など裏側でイベントを支えるスタッフの協力体制も見事なものでした。

関係スタッフのみなさん、ありがとうございました。次回も楽しいイベントをやりましょう。

(木村 裕)

9月・歴史研修会

「二上山博物館と 馬見丘陵等の古墳を巡る」

9月15日(火)、秋晴れの空の下、20名が参加。今回は博物館(1)、古墳(4)、神社(3)、天皇陵(1)等と変化に富んだ研修。車中で川井さんの「竹取物語」「広瀬神社」の楽しい話などを聞きつつ武烈天皇陵に到着。陵墓の場所等の裏話を聞き、志都美神社まで歩きコジイ優勢の社叢も見学した。



次は二上山博物館。サヌカイト原石を使った石琴の清しい音色に迎えられ学芸員の説明で見学。この博物館は3つの石がメインテーマ。即ち①サヌカイト(旧石器時代から弥生時代までの重要な資源)②凝灰岩(5・6世紀に王者の棺に使用)③金剛砂(明治以降、全国を席卷した研磨材に利用)。これらはすべて、2~1,000万年前の二上山の大噴火で生まれた火成岩です。剥片石器に使われたガラス質安山岩には瀬戸内中心に産出されるサヌカイトと、九州・中部以北などで産出される黒曜石があり、後者はよりガラス質化した物だという。歴史研修会では珍しく鉱物に関する話であったが、1時間を楽しく堪能した(以上は香芝市)。

次は古墳見学。先ず押坂彦人大兄皇子の墓と推定される牧野(ばくや)古墳。十分に整備された径55mの円墳で、広陵町の許可を得て横穴式石室内に入る。懐中電灯で照らされた室内は約10.5mの羨道の奥に石棺があり、石室の壁は大きな石でがっちり築かれている。天井の高さ(4.5m)に思わず絶句!やぶ蚊と闘いながらも見学に満足!

馬見丘陵公園で昼食。馬見古墳群の説明を受けて公園館を見学し、静かな山道を通ってナガレ山古墳の見学。



東側は埴輪を並べ葺石を葺いて築造当初の姿に復元し西側は芝生を張る。10年かけての整備で、1,600年前と後の姿と同時に見られる。葺石には二上山麓の安山岩や花崗岩を使用。675本の埴輪はFRP製に加えて住民手作り(約3割・銘入り)もあり、何となく微笑ましい前方後円墳であった(河合町)。

公園を歩いて隣にある巢山古墳(広陵町)を見学。長さ約220mの前方後円墳で、馬見古墳群でも最大級。墳丘の周囲は幅広い周濠が巡らされている。古墳の周囲を歩いたが、暑さのせいか皆さんお疲れの様子。給水休憩を取って竹取公園に向かったが、讃岐神社見学は取りやめた。(元気な会員さんから苦情は出たが…)。

バスで島の山古墳(川西町)へ直行。これも馬見古墳群の1つ。全長190mの墳丘の周囲に盾形の周濠がめぐる前方後円墳で、濠に満ちた水は横たわる墳丘の樹林(竹林)を映していた。雄大にして静寂。時の流れが止まったような落ち着いた風景。さっそく1句詠まれた俳人も…。この古墳から掘り出された石室天井石の1枚が隣接する比売久波神社の踏み石に使われていた。

最後は廣瀬大社(河合町)。長い趣のある参道(何故か日露戦争戦利品が展示)の奥に拝殿・本殿がある。この神社は奈良盆地の河川が一点に合流する地に位置しており、水を司る神として、天武天皇が風の神である龍田大社と一対になって祈願された。それ以降も歴代天皇が国家に事あるごとに奉告祈願され、旧官幣大社である。今では砂かけ祭り(御田植祭り)でも有名。神前に揃って神妙にお参りをした。『水を司る神様!今後、木曜日が晴れますように!』と。曼珠沙華にお彼岸近しと感じた4市・町巡りツアーはこれにて帰路へ。

(森英雄)

自然教室チームだより

帯解小学校 放課後子ども教室 昆虫観察会実施報告

9月16日(水)帯解小の放課後子ども教室を実施しました。あいにくの雨で楽しみにしていた外での昆虫採集ができなくて、とても残念でした。

1週間前の佐保台小の昆虫採集も台風18号接近のためやむなく中止しましたが、今年はずいぶん雨にたたられています。



しかしながらリーダーを務めた木村さん、菊川さんの雨の日プログラムは準備万全で、子どもたちを大いに沸かせました。

まずはびっくりする昆虫クイズで始まりました。ハチの仲間さがし、チョウの仲間さがし、幼虫の眼の位置はどこ? センチョコガネのえさ当てなど班対抗で夢中になって取り組んでいました。

その後はコガネムシの幼虫触りです。実際に持参した幼虫に触ったり、手のひらに載せたりしました。初めは嫌!嫌!とって逃げていた子供たちが多かったのですが、そのうちに平気で触れるようになった子供がたくさん出て来ました。

その後はぶんぶん音を立てて回るセミ太郎の自然工作です。それぞれ真剣そのものの顔つきで作り始め、出来上がった作品を回して音を楽しんでいました。

昆虫採集ができないのは残念でしたが、代わりにプログラムをしっかりと楽しみ、充実した放課後子ども教室だったと思います。主催者の方々も他

の行事と違って生き生きと参加しているとか、日ごろ接触のない昆虫の実物に触れられてとても良いといった感想を語っておられました。(倉田)

月ヶ瀬小学校

校庭の自然観察会に参加しませんか!

10月14日(水)に月ヶ瀬小学校の放課後子ども教室をします。校庭の植物を中心に自然の不思議や魅力を楽しみます。

どんな様子なのか見学してみたいと思われる方は是非ご連絡ください。

1. 日時: 10月14日(水) 2時半~4時
2. 場所: 奈良市月ヶ瀬尾山2350-1
(全校児童数は60名強で、各学年とも1クラスの小規模な学校です。)
3. 連絡先 倉田 TEL: 0742-62-8460

自然遊びのCD

欲しい方おられますか

皆さんはカヤツリ遊びをしたことがあると思います。三角の茎の両端を二人で持ち、位置をずらして割っていくと四角い蚊帳が吊れますね。

ところが最近の子どもたちは蚊帳を見た事がないせいか(?),この遊びを殆ど知らないようです。

自然教室チームではこうした楽しい自然遊びを子供たちに伝えていきたい、そうした遊びを通じて自然に親しみや関心を持ってもらいたいと考え、いろいろ使っています。

実習をしたり、本を見て集めたりした自然遊びを約200ほどCDに収めています。ただ、内容がダブったり、実際にやっても面白くなかったり、ちょっと材料が手に入らなかったりで、実際に使えるものはぐっと減ります。

そうした前提つきですが、もし見たいとか欲しいとか、思われる方がおられましたらお申し出ください。

連絡先 倉田 TEL: 0742-62-8460



鳥シリーズ 10月

カツオドリ

小田久美子

8/23の「NHKスペシャル 新生誕生西ノ島・大地創成の謎に迫る」をご覧になった方も多いかと思います。新しい島の誕生は数十年に一度とか。

これ程の大きさになるのは人類史上はじめてのことで、もしかしたら現代の科学でも判らなかった大陸誕生の解明が出来るのではないかと、世界の科学者が注目している存在なのだそうです。今年6月、日本の調査チームが島の近くまで行き調査を始めました。

西ノ島は本州から南へ1000^{km}、小笠原諸島の父島から8時間もかかる無人島です。2013年11月、島の近くから大噴火を起こし、今や元の島をも飲み込んでまだ拡大を続けています。火山学者は勿論、地質学者・海洋学者・そして鳥類学者や民間の技術者たちがチームを作り、満を持してノンストップでも50時間かかる島へ向かいます。

それにしても、日本国はどうしてこういうことにお金を回さないのでしょうか。オリンピックでは1000億安くなったとか、エンブレム更新で大損失とか、ばかな税金の無駄使いを次から次へと報じる毎日です。

チームの皆さんの人間力でクリアする努力を見ていると本当に腹立たしいのですが、そこは置いて冷静に画面に集中しました。美しい青空に巨大な煙がたなびき島が見える頃、画面にカツオドリかと思われる鳥がちらりと映った途端ドキドキしました。でも、大陸の誕生を今見ているのだと思うと、次々と変化するドラマチックな光景に、あほな政府や大事な鳥のことはすっかり忘れてしまっていました。

前置きが長くなりました。..やっと鳥の話です。川上和人（森林総合研究所の鳥類学者）さんたちは噴火前の2011年の調査で、旧西ノ島には緑がありオナガミズナギドリ・セグロアジサシ・カツオドリなど2000羽以上を確認し、その中にこの島にしかいないアオツラカツオドリを確認されています。アオツラカツオドリは、この10年

ここでしか確認されていない貴重種です。

この噴火の大イベント（ご本人の弁）の後、その鳥たちがその後どうなったのかをとっても心配されていました。

無人機で映像を見ると元の地面は1ヘクタール程に減り草が見当たりません。はたして鳥たちの繁殖はどうなっているのか、苦労して上空から機材を下ろしやっと回収（ユーホーキャッチャーのように頼りない）したら、なんと狭い地面で多くの鳥たちの乱舞するのが写っていました。その中にアオツラカツオドリも見えます。親鳥30羽、若鳥9羽がいて親が給餌しています。（2011年は数十羽いました。）

草の生えていない土地での巣材探しは大変で、親鳥は他の鳥が落とした羽根を拾ったりしていますが、取りあえず繁殖成功の様子に皆さん大歓声です。本当によかったあ!!私も拍手。でもこのまま噴火に飲み込まれるとアオツラカツオドリは来年の繁殖期はどうするのでしょうか。

カツオドリは、赤道を挟んで世界中に広く分布し、九州南部沿岸でも少数が生息する69cmのペリカンの仲間です。海上を飛び廻り岩場で休み、魚類などを見つけると上空から翼を後方に伸ばすようにして急降下し獲物を捕ります。

海の中ではサンゴ礁が出来て魚たちの楽園になって新種も多く発見されました。新たな生態系が作られつつある自然のダイナミズムを感動しながらあつという間の時間でした。



アオツラカツオドリ Yahoo 画像より

やさしい病害虫講座 18

「僕らは新興勢力！」

木村 裕

秋に栽培するアブラナ科野菜（キャベツ、ダイコン、カブ、ハクサイ）で勢力拡大中の害虫を紹介いたします。

害虫の世界も政治の世界と同じように世代交代があり、一時わが世の春を謳歌していた害虫も時代が変われば没落し、新しい害虫に取って代わられるようなことが起こっています。没落組の筆頭がハスモンヨトウ、新興組はハイマダラノメイガとダイコンハムシです。

秋のアブラナ科野菜栽培で最も恐ろしいのがハイマダラノメイガ、別名ダイコンシンクイの幼虫です。体長2cmにも満たない愛らしい？イモムシですが、名前の通りダイコンの芯の部分に食い込んで内部を齧ります。被害が軽い場合は新しい新芽が横から伸びてはきますが、生育が非常に遅れます。ひどい場合には新芽が現れず生育停止または枯れてしまいます。



昔は秋ダイコンでたまに発生する程度でしたが、最近はごく普通に発生し、しかもキャベツ、ハクサイ、カブラ、ハボタンなどにも縄張りを広げています。成虫は羽根を広げると1円玉くらいの大きさの褐色の蛾で、夜間に活動し新芽や新葉の裏にぼつぼつと卵を産みつけます。年に5~6回発生すると言われてはいますが、私たちの目に止まるのは8~11月です。卵からふ化した幼虫は新芽に食い込んだり、葉の中に潜ったりしますが、大きくなると葉を糸で綴り合せた巣を作り、食住に何の不自由もない恵まれた生活をおくりまわります。唯一

うるさいのは栽培農家のおじさんです。



ダイコンハムシ、別名ダイコンサルハムシは大昔の教科書に載っていた害虫ですが、ほとんど姿が見られない害虫でした。しかし5~6年前からなぜだか急激に増え、勢力拡大中です。ダイコン、カブラなどを主食にしていたのですが、最近はハクサイで多発しています。葉にぼつぼつ孔があいておればこの虫の被害とみてよいでしょう。



成虫はマッチの頭くらいの大きさ、お椀をふせたような半球形で、青色に光輝いた綺麗な甲虫です。捕らえようとして手を触れると、やばいと感ずるのか手足を縮めてころっと転がり落ちます。幼虫は黄色ですが大きな黒い斑紋をいっぱいつけているために全体としては黒っぽい虫に見えます。体は柔らかくウジ状です。親子は仲よくハクサイの葉に小さな孔をあけ、その大きさを競っています。一族郎党寄り集まって柔らかい部分をかじるため、被害を受けた葉は硬い葉脈のみが残された透け透け状態になります。虫食い孔に気づいたら虫を見つけて捕殺しましょう。





隠れ古社寺 ひとり旅 ⑱

歴史文化クラブ
川井秀夫

養天満宮・天神信仰の社を訪う

雨続きの日が晴れた某日。薬師寺・唐招提寺の周辺に天神・天満宮が多くあると聞き、ぶらぶらと歩いてみた。天神(菅公・菅原道真)信仰の名残か薬師寺の寺外に13社あると言う。尼ヶ辻の近くに菅原神社があり菅公の誕生地とする伝承があつて、菅原の里として村郷の鎮守社が菅公の怨霊を鎮護する祭祀の場が広がりを見せたのであろう。

養天満宮

唐招提寺への道の手前から横道へ、近鉄の小さな踏切を渡ると社頭の石灯籠があり石の鳥居を潜ると参道に入る。写真を撮るのに線路の中央からシャッターを切るほど近接している。危ない、危ない。

境内樹の社叢林が素晴らしく、奈良市の天然記念物に指定されている。樹相はツブラジイの群落だがナナメノキ、アラカシ、ネジキ、カナメモチ、サカキ、イヌビワ、草本ヤブコウジ、ベニシダ、フユツタ、ジャノヒゲ、マンリョウ、サネカズラなど。住宅地にあつて原始林的な森林形態を保っている。鹿など食害の無い事も大きな要因と考えられる。

短い参道を突き当たると、中央が土間の通路になった横長の割拝殿となり、両側の部屋は直会に使われるのだろう。本殿は一間社春日造り、朱塗りの柱、長押、白壁が境内の緑と絶妙な調和を見せてくれる。

菅公を本地仏(本地とは本来菩薩の姿。神が仮の姿として現れ衆生を救う)として崇める本地垂迹説のあれである。つまり、天神を観音菩薩に擬したものである。境内には落葉一つなく、氏子たちの奉仕精神が心に残った。

天満神社

西の京駅から南へ500米程、市道脇に鎮座する。門はかんぬきで施錠され格子目から社殿を覗く。社伝によれば993年の開基、切妻造りの三間社流れ造り、創建は16世紀と縁起は記す。部材は中世のものと言う。

祭神の菅公の脇神が面白い。雨宝童子と蛭子童子。前者は天照が日向に降臨された時の姿と言う。また、大日如来の化現したものとも。後者は伊弉諾の最初の子として生まれるが、3才になっても脚が立たず、流し捨てられる。中世に恵比寿の神として尊崇され、身体に障害のある人々の信仰が篤い。

6社を巡ったが紙数がないので残念。野々宮天神社・皆天満宮・西波天神社・福天満神社など後日に譲るとして、これらの立地条件をみると住宅に押し潰される様、氏子の継承がなければ消滅の恐れが危惧される。八百万神の世界にも人口減少が始まっている。

(養天満宮本殿)



左から 天満神社本殿、野々宮神社、皆天満宮、西波天満社、福天満社



草の海帰る燕のエピローグ 西谷範子

燕の罫入り。私も参加して平城宮跡の壮大な自然のドラマに息を呑む。子育てを終り帰燕の道中、無事を祈る

花茗荷小さき籠にも満たぬほど 西谷範子

茗荷の採取時期は難しい。花が咲ききると薹がたつ。沢山食べると忘れっぽくなると言う。程々で良いじゃない

毛虫群れ葉一枚の宇宙かな 古川祐司

毛虫が育つ頃。葉を透かす程食べる悪い奴。生きるための食糧宇宙圏。良いじゃないですか。美しい蝶に化けるかも。

雲流れ 酢橘すだちの色の深まれり 古川祐司

毎年作者邸の香りを賞味させて戴いている。搾る一滴に味覚が倍加する。お宝の雫、サンキュー・サンキュー。

居酒屋の秋刀魚づくしの大漁唄 鈴木末一

外来漁船の乱獲で稀少種になる恐れも。今の内、思う存分食べやんせ!。「大漁唄」の措辞が雰囲気を醸す。

七輪しちりん囲むまだかまだかの初さんま 鈴木末一

七輪とは懐かしい。「かんでき」のこと。関西地方の言葉。屋外で炭を熾して魚や餅を焼いたものだ。サンマの匂いが届く様にしえ

古も今も涼やか賀茂源流 阿部和生

八月有志で鴨川の源流を訪ねる。洛北の深山、洞窟の一滴が大河となる。悠久の自然の営みに感動。帰りのジョッキの一杯が旨かった



俳句百景

監修 川井秀夫

曼珠沙華いとけなき日の首飾り 青木幸子

少女時代の追想句。「いとけなき」幼ない頃の遊びが髣髴される。懐旧と叙情が表出されて佳し。

虫の音を耳じに遠きや本を読む 青木幸子

秋の夜長。読書の秋、食欲の秋、秋、秋、秋。秋満載の一句。野外の秋も、月・星・風・雨・音などご健吟下さい。

思い草心の奥にそつと咲く 羽尻 嵩

「思い草」は南蛮キセルの異名。作者は意外とロマンチスト。失礼思いは初恋の人? 新婚の頃の奥さん? 良い思い出は永遠なり。

黄蜻蛉とラジオ体操イチニイサン 羽尻 嵩

里山朝の体操。先日黄トンボの群舞に手足が乱れる。それは年のせいよ。四季を通じ、季節を象徴する現象が楽しい。

空仰ぐ雲も鱗うろことなりなりにけり 八木順一

「鱗」は秋の季語。「鱗雲」も秋の雲形。四季の雲をみていると季節の変化が予知できる。地上は残暑しきりだが、天空は秋が忍び寄る。

さわやかに風の流るる墳つかの前さき 坂東久平

九月歴史例会。馬見丘古墳群。後田墳の傾斜を滑る秋の風。頂に奈良盆地が一望。古墳博士最高の日。俳句も上々。

おちこちと稲穂のはざま墳はかめぐり 川井秀夫

今回も歴史日和。「おちこち」は遠く近くの俳句特有の用言。豊穰の地は古代王墓の神々の加護か。稔りの時が近い。

初秋

癒しの散歩道

谷川萬太郎

小糠雨が木々の背にしとすと降り注ぐ小さな秋
 優しく身体を包むように労わる心が何といじらしい
 はしゃぎ過ぎたあの夏の懐かしさも色褪せ消えた
 歩き馴れたこの道を今日も飾らぬままに静かに歩く
 足下踏みしめ恨めしき空を眺めても心は秋模様



肩に冷たい秋雨はやるせない人の気持ちを弄ぶ
 木枯らし吹きて落つる枯れ葉舞い郷愁誘う山里よ
 途絶えし旅人の後追い駆ける一羽のはぐれ鳥
 雨がやみ陽が陰る夕暮れ時田畑に昇る煙浸みて
 深まる秋そっと忍び寄りてじわじわと肌に溶け込む

ならやま茶論

「さわやか到来」

竹本雅昭

長椅子：えっ、これから引越？ そうかあちらこちらで小さい秋が見られますもんね。

翁：君達には大変世話になったな、この木陰には用無しだ、あったかい方で働いてもらおうわ。

長椅子：ほんなら我々は六脚で重いから調子付けに一丁歌いましょうか。

翁：えっ！それは御免やな、だって君等のカクン♪カクン♪の四角リズムでやられると、運んでいる二人が下敷きになるやも知れんので悪いけど止めとき。

長椅子：でも気の毒ですな、我々古参の者は日焼けしてますけど、ガッチリ出来てますので、例え途中落とされても何ですが、新参の木肌も白いもんには気を付けたとくなはれ。

翁：えらい気遣うてもろておおきに。四人掛けで昼飯してたら美味しいし、面白い話もようけ出来てほんまに疲れを忘れるわ。

長椅子：皆さんにそんなに喜んでもらえるなんてとても光栄です。

翁：君達とこの里山への感謝を込めてどなたかの文をアレンジして。

『繊細でソツのない、神経の行き届いた季節を演じる「自然」という親切者に感謝一杯ですぞ。』

～終わり～





- ① オイルパステル画
(有元康人)「柏葉アジサイ」
- ② 水彩画 (八木順一)「三輪山にて」
- ③ 墨彩画 (羽尻 嵩)「秋声」
- ④ 陶 芸 (小島武雄)「ねずみと一緒に」
(赤土、白萩釉)



①



②



③



④

ならやまプロジェクト

明るく・楽しく・無理せず・諦めず
活動予定日



10月	1 (木) 22 (木)	8 (木) 29 (木)	15 (木)
11月	5 (木) 26 (木)	12 (木)	19 (木)

◆ 場所：奈良市佐紀町、奈良阪町、法蓮町、法華寺町にまたがる約 20 haの里山林地（県有林）

◆ 集 合：現地ベースキャンプ地・午前9時

◆ 終了予定：午後3時

◆ アクセス

- ① JR平城山駅下車：東口から南へ徒歩 10分
 - ② 近鉄奈良駅：バス13番乗り場 115系統
8：28発、高の原行き（平日）
 - ③ 近鉄高の原駅：バス1番乗り場 115系統
8：36発 JR奈良駅西口行き（平日）
- ②③とも「佐保台西口」又は「平城大橋」下車
徒歩7分

◆ 携行品など：弁当、飲み物、軍手（作業用具は現地で用意）



◆ 環境保護のため、お椀、箸、コップなどは各自ご持参下さい。



◆ 連絡先：八木 順一 0774-55-4044

里 山 Gr

- 10/1 <景観サポーター関係>
樹木の伐採作業の指導 *境界ロープ張り
- 8 **一斉山の日（部分皆伐地の整理）**
- 15 <林野庁関連作業>
カシナガ被害木伐採、その他枯損木伐採
薪関係作業 *境界ロープ張り
- 22 <林野庁関連作業>
- 29 <林野庁関連作業>

エコファーム Gr

- 10/1 葉菜類種まき、ハウレンソウ、ミズナ、ミブナ、チンゲンサイ
- 8 **一斉山の日（部分皆伐地の整理）**
水稻の稲架用竹の準備
ネギに肥料と土寄せ
- 15 大根（YRくらま、丸大根、紅心）
肥料と土寄せ
- 22 稲刈り（佐保台小、会員）雨→29日
- 29 脱穀作業（佐保台小、会員）雨→11/5
茄子の撤去と後片付け、耕耘
ソラマメ、エンドウの種まき

景 観 Gr

- 10/1 第五地区の草刈り・池整備
山野草園草取り名札立て、ヒマワリ撤去
観察路の笹刈り
- 8 **一斉山の日（部分皆伐地の整理）**
佐保自然の森の草刈り
水生生物調査、池の整備
花生姜刈り取り、春花種まき
- 15 BC周辺の草刈り
池整備
マリーゴールド漉き込み、紫花菜植え込み
観察路のロープ手摺を鉄杭による補強
- 22 彩の森の草刈り。蕎麦はざ掛け準備（4箇所）
水生生物調査、池の整備
時計草撤去、ドイツアヤメ園草取り
希少植物の保護柵の更新
- 29 蕎麦刈り取り、はざ掛け
池整備
山野草園柵作り、施肥
観察路の丸太階段補修、倒木の処理





ボランティア活動への思い

私たちを取り巻く社会状況の中で、団体や個人がそれぞれの地域社会の抱える課題解決のために貢献する活動は、「公共」のための活動として位置づけされ、また評価されるようになってきています。即ち、経験や能力を活かし支え合うという意味合いの「新たな公共」を創出するために寄与する活動、このような活動を「奉仕活動」と捉えることができるのではと思います。社会参加の場、学習する契機、自己実現等々により、豊かな人生を送るためのキーともなり得ると思います。

ならやま景観整備活動は、再来年の3月に10周年の節目の年を迎えます。荒涼殺伐とした里地里山が、会員の皆さんの「汗と努力と情熱」により、昔日の情景を取り戻しつつあります。今こそ、過去・現在・未来のプロセスの中で、「ならやま」の未来像(目標)を確立させなければなりません。三本柱(ならやま景観整備・月例研修会・自然教室)の他に、歴史文化クラブ・蕎麦クラブ等々、150名の会員の皆さんのコミュニケーションの場が多様化してきました。そこで、稲盛和夫氏の【アメンバー経営】の精神をアレンジしてみたいと思います。勿論、利潤追求活動ではありませんが、「利潤」を「心の豊かさ・感動・夢」に置き換えてみることは如何なものでしょうか。会員の皆さん一人ひとりが主役となり、自主的に参加する「全員参加活動」の実現であります。

現在も実践されていることもありますが、

- ① 計画立案と目標の共有化。
- ② 会の目標を元に「マスタープラン」を立てる。
- ③ マスタープランを元に「月次予定」を立てる。

情報の共有化を図り、プランに沿った活動の継続性を持たなければなりません。言うまでもないことですが、一定の成果を挙げていくことが求められるかもしれませんが、ノルマを課せられたものではなく、「心のゆとりと充実」が根底になければならないと思います。

言葉足らずではあるかと思いますが、徒然なるままに・・・

(鈴木 末一)

旬菜旬食

ならやま
エコファーム料理

*さんまの香味巻刺身

*ずいきの胡麻和え

*万願寺と牛肉の炊いたん



◆材料 (2人分)

刺身用さんま2匹・大葉5枚・茗荷3個(甘酢に浸けたものでも良い) ずいき1本・牛肉100g・万願寺とうがらし6本
調味料; すり胡麻・醤油・砂糖・酒・味醂

◆作り方

*さんまの香味巻刺身

新鮮なさんまのはらわたを取り3枚におろし刺身用に骨もすいておく。片身を半分に切り4切れずつ大葉と茗荷を斜め切りしたものを中に巻き食べる前30分位冷凍庫で半冷凍にして食べると美味(わさび醤油又は生姜醤油)

*ずいきの胡麻和え

ずいきは皮を剥いて食べやすい大きさに切り湯がく(少し歯ごたえのある位、7分位) すりごま30g・砂糖小匙1・味醂・酒・醤油各大匙2で和える(胡麻は多いほうが美味しい)

*ずいきを固めに湯がきゴマ油で炒め油揚げを小さく刻んだものと一緒に砂糖、醤油、味醂酒で味付けして炊いても美味しい

*万願寺とうがらしと牛肉の炊いたん

牛肉は砂糖大匙3・酒、味醂、醤油各大匙2で甘辛く煮る。肉を炊いたお汁で万願寺とうがらし(好みで種を取っても良い)を煮る

*牛肉と唐辛子を一緒に煮ても良いがその場合の唐辛子は、小さい唐辛子(紐唐辛子等を細かく切り佃煮風に炊きご飯の上に乗せて食べると井風で美味しいよ!!

(池田 富子)



行事案内 part 1

秋のめぐみだ！

お芋を掘ろう！

空は深く澄み渡り、さわやかな季節となりました。正しく錦秋色濃く稔りの秋です。

今年も恒例の秋のならやまでの公開イベントを実施します。会員の皆様方には、是非スタッフとしてご協力いただきますようお願いいたします。また、ご家族でお気軽にお越しいただきたいと思っております。

今年は曇天や雨模様の日々が続き、日照不足による作物への影響が気になります。案の定、野菜の値段が高騰しています。しかし、ならやまのサツマイモは、会員の皆さんが日頃丹精込めてお世話いただきましたので、きっと「お芋」さんも、皆さんの愛情に応えてくれるのではと期待しています。

今年栽培している品種は、「鳴門金時」と「紅はるか」の2種類です。有機栽培に徹していますので、「美味しい！」という声が、ならやまのフィールドにこだますることでしょう。

① 日 時：平成27年10月17日(土)

午前10時～午後3時

※雨天の場合は翌日18日(日)

② 参加者：佐保台小の元気っ子

※50名(保護者の方も含む)

③ 内 容：芋掘り・ならやま探検(自然観察)

※芋の大きさや蔓の長さコンテスト

※ならやま探検は、周遊コースの自然観察をしながら、途中でクイズやゲームなどを盛り込み、楽しんでいただきます。

※昼食の時に、ならやま名物の「美味しい豚汁」を賞味していただきます。



10月月例研修会 一泊研修
「但馬の郷を訪ねる」



日時： 10月19(月)～20日(火)

<19日> ◆国史跡「竹田城跡」…この城は戦国時代に完成したが、江戸幕府が支配するとともに廃城とされた。1980年に復元されて「天空の城」として人気になった。

城跡大手門へは乗継ぎバス乗車後、山道を徒歩で行く。城跡見学はボランティアガイドが付く。

◆但馬高原植物園… 平地植物と高地植物、南方植物と北方植物の限界線に位置し、日量5000tの湧水がある。自生樹木・草花が2000種以上あり、昆虫や野鳥も多い。樹齢千年の幹周り16mの大カツラは有名。園内ガイド付。

◆宿泊 シルク温泉「やまびこ」… 源泉かけ流しの美人の湯の岩風呂めぐりを楽しみ、自然に囲まれた宿で疲れを癒しましょう。

<20日> ◆コウノトリの郷公園… 1971年日本のコウノトリは絶滅するが、旧ソ連から送られた鳥で1989年に繁殖に成功し、野外で生まれた鳥も増え、現在野外に80数羽がいる。

飼育場のある文化館とその近くで、研究員から話を聴き、農家や地元の人たちが、コウノトリと共に生きる取組をどう進めてきたかを研修する。

◆出石城下町… 記紀などの文献によると、3世紀末に渡来した新羅の王子の天日槍(アメノヒボコ)が祭られている出石神社を見学する)が、沼地だったこの地をひらいたとされる。戦国時代に山名氏が山城を築くが、秀吉軍によって落城し、江戸時代は出石藩の城下町として栄えた。今回は、出石城跡と明治に建てられた近畿最古の芝居小屋「永楽館」を、ガイド付きで見学し、町を散策する。

集 合：近鉄西大寺駅 南口 8時(厳守)

解 散：近鉄西大寺駅 南口

会 費：23,000円(予定)

受 付：9月17日(木)から、先着順で受付。

定員35名になり次第締め切ります。

担当幹事：羽尻嵩(090・5120・8151)

寺田孝(090・4227・8107)

田矢恵造・山本妙子



行事案内 part 2

(自然教室チーム)

10月の自然観察会のご案内 高山竹林園からくろんど池へ

生駒市高山といえば「茶釜の里」として全国に知られています。竹林園は、この伝統ある竹製品をPRし、地場産業の振興を図るために作られたそうです。園内には、資料館と竹林があり、公園のようになっています、およそ500種の竹が植えられています。当日は、施設の方に竹林と資料館を案内していただきます。

竹林園を出た後は、近畿自然歩道で植物観察をしながら、ゆっくり1時間半ほど歩いて、大阪府との県境にあるくろんど池に向かいます。

どなたの参加も歓迎です。

皆さん、どうぞご参加下さい。

実施日 10月27日(火)
集合場所・時刻 高山竹林園入り口に9時40分
 (予告の9時50分を変更します)
アクセス 近鉄富雄駅よりバスで約30分
 傍行行き9時発乗車、上大北下車
車・バイク 駐車場があります。
持ち物 弁当・飲み物・観察用具・雨具等
雨天の場合 本会の申し合わせ通り
日程 9時50分から竹林園見学
 11時～観察をしながら歩く
 12時30分 昼食
 14時頃現地解散後バス乗車
担当 平岡久美(携帯 080-3133-3700)



下見の日(9/1)に咲いていた花、ツルリンドウです。当日は、この花の種に会えるでしょうか。

11月 例会予告 大阪府民の森 室池園地の自然観察会

池あり、森あり、湿生植物ありで、魅力いっぱいの室池園地の自然観察会を予定しています。

紅葉には少し早いかもしれませんが、秋の自然と、いろいろな植物との出会いを楽しみたいと思います。



***実施日** : 11月17日(火)

***集合場所・時刻** : 生駒駅9時20分

***アクセス** : バス 9時30分乗車

田原台一丁目下車 徒歩で室池園地へ

***詳細は**、11月号に記載いたします。

(担当 辻本信一 平岡久美)

歴史クラブ11月 研修会(予告) 紅葉の永源寺と聖武帝遍歴の軌跡を訪ねる

11月の研修会は、聖武天皇の都移りの軌跡をたどって、紫香楽宮跡、恭仁京跡を訪ね、当時の歴史の背景について考えることにいたします。

コースの中には、湖東随一の紅葉の名所永源寺や木地師発祥の地なども加えて、晩秋の風物も併せて楽しみたいと思います。

《実施要領》

①日 程 : 11月24日(火) 雨天実施

②見学箇所 : (マイクロバス利用)

紫香楽宮跡、恭仁京跡、安積皇子墓、永源寺、君ヶ畑町の木地師の里、(未定:芭蕉の幻住庵)

③費用 : 3000円(予定)

④人数 : 27名(事前予約制)

⑤照会先 : 歴史文化クラブ事務局 古川 祐司

(rekibun@naranature.com)



平成27年・9月度幹事会報告

◆日時：平成27年9月1日(火)17:00～20:20

◆場所：奈良市中部公民館

◆出席者：幹事19名、顧問2名

◆案件

I 会長挨拶：

8月22日で本年度のグリーンギフトプロジェクト終了。9月16日3年目のキックオフミーティング参加。

II 会計・事務局より：

1. 会員動向：現在1名増え151名

2. 会計報告：会計から概略報告がなされた。

III. 活動・行事関係に関わる懸案・確認事項

1. 3ヶ月間・スケジュール、当月スケジュールの検討と確認

- ・ 3ヶ月間・スケジュール、9月14日に自然教室の打ち合わせ会を追加
- ・ 9月・ならやまプロジェクトでは、景観Gの水生生物調査を1週ずつ遅らす。

2. ならやまプロジェクト関係

- ・ 備品の収納状況改善：整理整頓を励行したい。
- ・ 会員の健康管理、安全対策がおざなりになっている。安全講習も必要。
- ・ ならやま活動は、前日19時の天気予報で降雨確率が60%以上で活動は中止。翌日の金曜日に臨時活動を実施することになっている。今後はその原則を守る。自主的な活動についてはならやま活動日数にカウントしない。
- ・ 国土交通省から配布依頼の原稿素案提出があった(回覧)。

3. GGプロジェクト：8月22日、78名の参加があり終了。好評であった。

4. 月例研修会：8月17日、尼崎訪問の行事に26名が参加。9月は25日高野山方面行き。10月は一泊研修を予定。

5. 自然教室：8月18日、ツバメのねぐら入り観察会(14名の参加)。9月14日打ち合わせ会(上期の振り返りと次年度の方向付け)、

10日巨樹巨木観察予定。放課後教室は9月9日、16日に実施予定。

6. 歴文研修：9月15日、バスで香芝方面へ(募集定員27名)

7. 経団連皆伐作業の実施予定：9月16日から2月末まで日本森林ボランティア協会に協力を仰ぎ、部分皆伐を実施する。安全面から作業期間中、その地区への立ち入り禁止とする。

8. 平成27年度景観サポーター基礎講習：9月17日に実施。午前中は作業、昼食時～午後は当会との意見交換、2時半から自然観察路の散策。

9. その他：

- ・ 27年度のグリーンギフトプロジェクトのまとめ：3回実施し、253名が参加。
- ・ 芋ほりイベント：リーダーを早急に決定。午前中は芋ほり午後は自然環境教育予定
- ・ イベントキャップの製作：ベストに代えイベントキャップの採用を検討する。デザイン、個人負担をどうするか等も合わせ検討。
- ・

IV 広報関係

1. ネイチャーなら10月号編集内容：字遊字感に関しては予備原稿を4～5本くらい持ちたいので原稿を書いて貰いたい。

2. その他

- ・ 会のキャッチフレーズに統一性がなく、安全の意味合いも抜けている：周年行事関係の中で検討する。

V 周年行事(事業)関係

- ・ 実行委員会を構成し、早急に実施に向け会議を開く。(9月中)

VI 喫緊案件

- ・ ならやまでの活動時間：気象条件に問題がなければ9月10日から平常時間にもどす。当日午後に備品調査を実施したい。

以上



仲間入りしました

8月に入会しました、主人が皆様にお世話になっています。

ならやまでの活動などを聞いており、春の感謝祭にも参加させて頂きました。一緒に活動したいとも思っていますが、昨年脊椎の圧迫骨折をしてから十分に回復していないので、当分は木曜日の活動には参加出来そうにありません。

例会や歴史文化クラブなどの行事に参加させて頂きたいと存じます。

趣味は、陶芸や庭の花壇、コーラス等です。昨年までは、山歩きをしていましたが未だ恐くて再開には時間が掛かりそうです、これから季節が良くなりますので、体力増強に励み広く活動に参加出来るよう頑張りますので、よろしくお願ひします。
(坂東由紀子)

奈良学 クイズ



【問1】

写真の人は、奈良に深い関わりがあります。お名前を漢字でお答えください。

【問2】ある野菜の語源は、ナワトル語でホオズキの実を意味する『tomatl』に由来します。

この野菜はなにでしょうか。

問3】問2の野菜は、本来は一年生でしょうか、それとも多年生でしょうか。

【締切】10月5日(月)

【応募方法】

メール nara-suzuki@naranature.com

or FAX 0742-33-4853

【9月号正解】

- ① 吹石一恵 ② 清水公照
② 井筒和幸

◆ 申し合わせ ◆

※ ならやまでのプロジェクト活動やイベントは、前日午後7時前のNHKTV天気予報で奈良県北部の降水確率が午前60%以上の場合は、中止になります。

※ 通常活動日【木曜日】が、雨天等により中止になった場合、翌日【金曜日】を臨時活動日とします。



◆ 生物多様性(英語: Biodiversity)とは、生物に関する多様性を示す概念であり、生態系・生物群系に、多様な生物が存在していることを指す。

今日の地球上に見られる生物多様性は約40億年の進化の結果で、推定値は1000万種とされる。

外来の生物が日本の生態系を乱すのが問題(琵琶湖のブラックバスなど)となっており、外来種が生態系に導入され、その生態系にいる在来種を駆逐すると、絶滅危惧種が増えていくことになる。

今、企業ではダイバーシティが海外との競争に勝ち、生き残る手段として注目されている。

ダイバーシティの基本概念は、個々人の「違い」を尊重し受け入れ、「違い」に係わらず、全社員を組織に平等に参加させ、能力を最大限発揮させるものである。

「ならやま」のダイバーシティは如何か。

(行々子)

会報誌[ネイチャーなら]・第165号

発行：奈良・人と自然の会

会長 藤田 秀憲

<http://www.naranature.com>



編集チーム代表：坂東久平